

保ハ故師重の弟従として救度勇の養あり
正行并記の母ハ和國を并秋山と河原ヨ
て戦ひ其外ヨモ言名度くあり其業を法
人ヨ傳れられは是を彩て救度軍を仕
つゝん其の勇なけれハ是定の死を逃れて
戴新君をもちり相之と云く太平記ハ此傳
説を見れし傳書に山野の歎を追河江の
鱗を渡り相と云く鄙の所を阿保氏のいを
れりを以て考れハ此人余目のまゝして
位牌ハ記を左弟を形ハ其父の子ヨや年

以モ又お母を位牌の安保を阿ハ作ル（ま
を太平記系書を見りハ安保阿保二家有
安保ハちまハ及惠性の弟の子ヨて新田
義貞と分信の合戦ハ安保入及遠堪嫡子
孫ヨ并其の爲ヨた死を——事あり阿保忠
實ハ尊氏の執事師重の弟従之安保阿保
混を（）ハ人曰阿保家の先祖ハ関東
後ヨて代ハけ而ヨて居位——十六代目ハ阿保
与右弟と云——と云け人ヨ其弟聖ヨ呪咄を
れ天正三年疫病ヨて死に合すハ与右弟